

別海育ちの詩人向井夷希微^{い き び}～ふる郷を詠んだ詩^よ

ふる郷（一）

ふる郷を思へば恋し東蝦夷
鱒^{えひ}が口開きし海に注ぐ河の^{ひら}
西別の秋は名に負ふ鮭^{あぢ}に飽き、
冬籠り春さり来れば浜のどよみ。

群来鮭^{く き}、生氣^{せい き}は躍る蒼波^{あをなみ}や、
網さばく海人^{あ ま}がきほひに霞こめて、
大釜^{こなた}や、此方にのぼる油湯気、
乾糟^{ほしかず}の蓆は遠く砂を掩ふ。

桜嶋蜆をあさりて寄るなべに、
板落とし構へて待てる背戸^{はたけ}の畠^{はたけ}、
馬鈴薯^{じやがいも}の花の紫、白き中、
日はうらら陽炎燃えし昔いかに。

この詩は、明治20年頃の別海（現在の本別海）の情景を詠ったもので、今から約100年前の1907（明治40）年に石川啄木も参加した函館の同人誌『紅苜蓿（べにまごやし）』の第五冊に掲載されました。

当時まだたくさん獲れていたニシンを肥料にするため、どこまでも続く砂浜の干場でしばり粕を干している様子などが目に浮かぶように描写されており、当時の別海の姿を知る上で大変貴重な郷土資料といえます。

作者の向井夷希微（本名永太郎）は、1881（明治14）年青森県に生まれましたが、すぐに家族と一緒に別海村に移住しています。家族は官営の別海缶詰所で働きました。1890（明治

23）年に一家が根室に移るまでの約10年間、夷希微は別海で過ごしたことになります。

その後夷希微は花咲尋常高等小学校の代用教員を経て、1903（明治36）年に函館に移り、英語の私塾を営むかたわら、手書きの同人誌『牧笛』を発行しています。『紅苜蓿』に詩を発表していたのも、この函館時代のことです。

1907（明治40）年、北海道庁拓殖部林務係として札幌に移りますが、10年後の1917（大正6）年、「官吏で終りたくなかつた」夷希微は「非常なる決心を以て」詩人として生きるた



『紅苜蓿』第五冊の表紙。デザインは主宰者でもある大島流人。

「オジロフシ・オオワシ観察会」 のご案内

めに退職し、詩集『よみがえり』と『胡馬の嘶き』を立て続けに出版しました。

『胡馬の嘶き』には、「開墾」「駅通」「馬糞」「アイヌ」など主に北海道を題材とした詩 32 篇に加えて、亡くなった祖父に捧げた「おぢいさん」という一文が附録として掲載されています。この中で夷希微が、「根室の西別川は鮭の産地として石狩川と並び称されて居るが、品質の優良な点に於て日本一であるのだ。其河口の小村別海におれは生ひ立つたのである」と故郷別海について誇らしげに書いているのが印象的です。

(次号では夷希微が別海を詠った詩をもうひとつ紹介します。)

※詩文は変体仮名・異文・旧字を適宜改めた。また、明らかな誤植 1 文字を訂正した。

参考文献

- ・『紅苜蓿』第五冊(苜蓿社、1907年)(復刻版 函館市文化・スポーツ振興財団、1991年)
- ・根室・千島歴史人名事典編集委員会『根室・千島歴史人名事典』(根室・千島歴史人名事典刊行会、2002年)
- ・本田克代『『胡馬の嘶き』ヤーイ』『朝霧』第 18 号(1996年)9~18頁
- ・本田克代「石川啄木と根室ゆかりの人々」『朝霧』第 19 号(1997年)117~144頁
- ・向井夷希微『詩集 胡馬の嘶き—北海道風物詩』(1917年)
- ・向井豊昭「オホーツクの魂・向井夷希微のこと」『朝霧』第 20 号(1998年)11~16頁
- ・向井豊昭『北海道文学を掘る』(2001年)

※向井豊昭さんは向井夷希微のお孫さんにあたり、今回の執筆に際して文献や情報を提供していただきました。(文責 戸田博史)

郷土資料館のお知らせ(1月)

- 休館日 1日~8日・20日~22日
- 開館時間
午前9時~午後5時(入館は午後4時30分まで)
- 観覧料
一般個人 300円 一般団体(10名以上) 240円
高校生以下は無料となります。

- 日時 平成19年2月17日(土)
- 集合場所 郷土資料館または本別海地域センター
- 講師 別海町郷土研究会会長 渡辺 昇 氏
- 日程
9:00 郷土資料館前集合
9:30 本別海地域センター前集合
9:40~11:00 観察(風蓮湖・走古丹漁港)
11:00 現地解散 11:15 本別海着、解散
11:40 郷土資料館着、解散
- 定員
20名(定員になり次第締め切ります。)
- 申込み受付期間
平成19年2月16日(金)まで。
- その他
・当館または本別海地域センターのいずれかの場所に時間までに集合して下さい。車は当館でも用意しますが、自家用車での参加も可能です。
・双眼鏡をお持ちの方は持参してください。
- お申込み・お問い合わせ
当館まで、電話・FAX・e-mail でお願ひします。その際、車の利用(自家用車かあるいは当館の用意する車か)と集合場所についてもお知らせ下さい。



(当館所蔵「オオワシ」剥製)

別海町郷土資料館だより No.90

発行日 平成19年1月1日
発行所 別海町郷土資料館
別海町別海宮舞町30番地
電話 0153-75-0802 (FAX 兼)
e-mail kyoudo@betsukai.gr.jp

編集後記 函館で大火に遭った石川啄木は、夷希微の紹介で札幌の『北門新報』に就職、また夷希微の暮らしていた同じ下宿屋に部屋を借りました。啄木が札幌にいたのはわずか2週間ほどでしたが、その下宿屋の跡を記念して札幌駅北口にあるクレストビル(北7条西4丁目)の入り口に案内プレートが置かれています。(戸田博史)